

富士見町景気動向調査報告書

～小規模事業者・中小企業者景況基本調査～

2021年（令和3年）4月から6月

1 調査期間 2021年（令和3）年4月～6月（第1四半期）

2 調査対象 富士見町内小規模事業者・中小企業者

3 回答状況

農業	1社
製造業	11社
建設業	2社
小売業	3社
サービス業	1社
飲食業	3社
観光業	4社
計	25社

4 調査項目 ① 3か月前と比べて
② 前年同期と比べて
③ 3か月後の見通し
※ 経営者が受注額（販売額）・売上高・営業利益等から主観的に判断しています。

5 業況DI（Diffusion Index）とはゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表し、マイナスの値で景気の下向きを表しています。

volume 1

主管 ふじみまち産業振興センター

<概況>

今回から始めた調査である。2020 年春ごろ始まっている新型コロナウイルス感染症拡大の影響は現在でもあるが業種ごとに偏りがある。

製造業の業況 DI 値を見ると 3 か月前と比べて+27.3 ポイントで一時的落ち込みはあったものの好転に転じている。前年同期比においての DI 値も+36.4 ポイントであり、数値にも表れている。今後の懸念材料は、材料費の高騰による利益の圧迫である。

建設業の業況 DI 値はいずれも基準値の「0」である。サンプル数が少ないので一概に言えないが人手不足の状況は続いており、そのための対策として設備投資などで事業の効率化を図ろうとしている事業所もある。今後懸念材料は、建築資材の高騰や納期遅れである。

小売業の 3 か月前と比べての業況 DI 値は+33.3 ポイントであるが、サンプル数が少ないため楽観視できない。

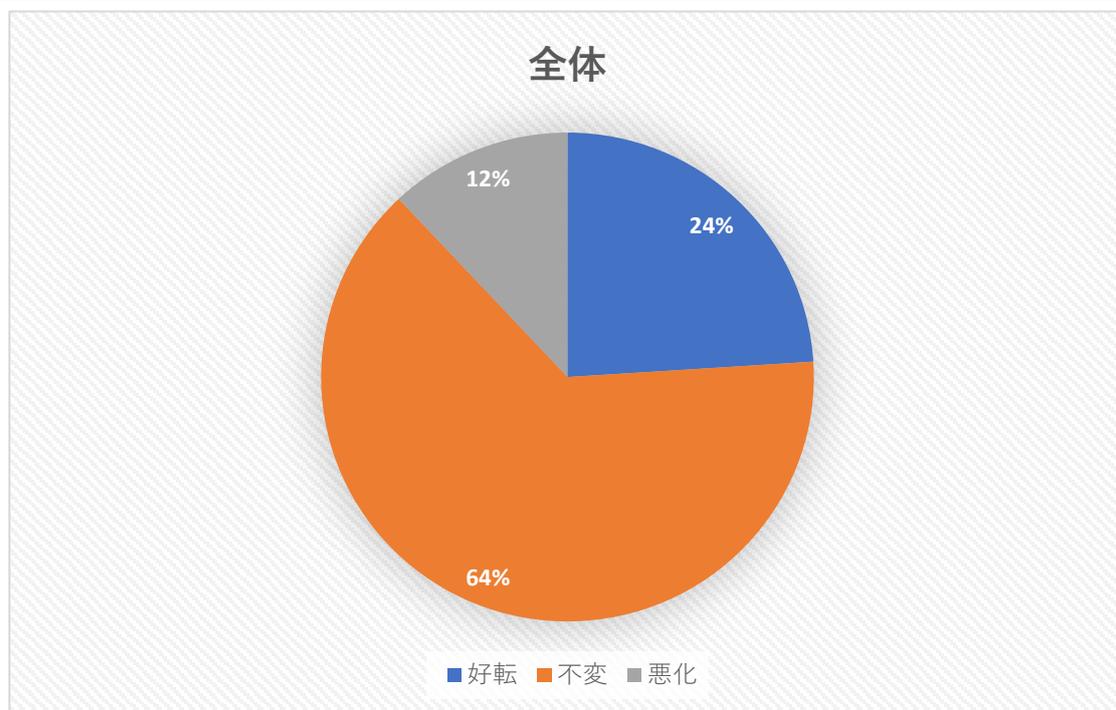
飲食業については、前年同期と比べての業況 DI 値は+33.3 ポイントであるが、現在、首都圏等の感染者が爆発的に増えている状況であり、またその影響が地方に波及してくる恐れがあるため心配である。今までは国や県あるいは町からの支援金や補助金により、やり繰りしてきている状況がある。テイクアウトなどを試みて売上確保に努めているが、抜本的な解決策にはなっていないとの意見もある。

観光業については、3 か月前と比べての業況 DI は-25 ポイントであり当初から新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けている業種の一つである。首都圏等に緊急事態宣言が発令されてしまうとその影響をまともに受けてしまう。小規模事業者ほど飲食業と同様に国・県・町などからの支援金によりやり繰りしている状況がある。

いずれにしても今後の状況はワクチン接種がカギとなる。

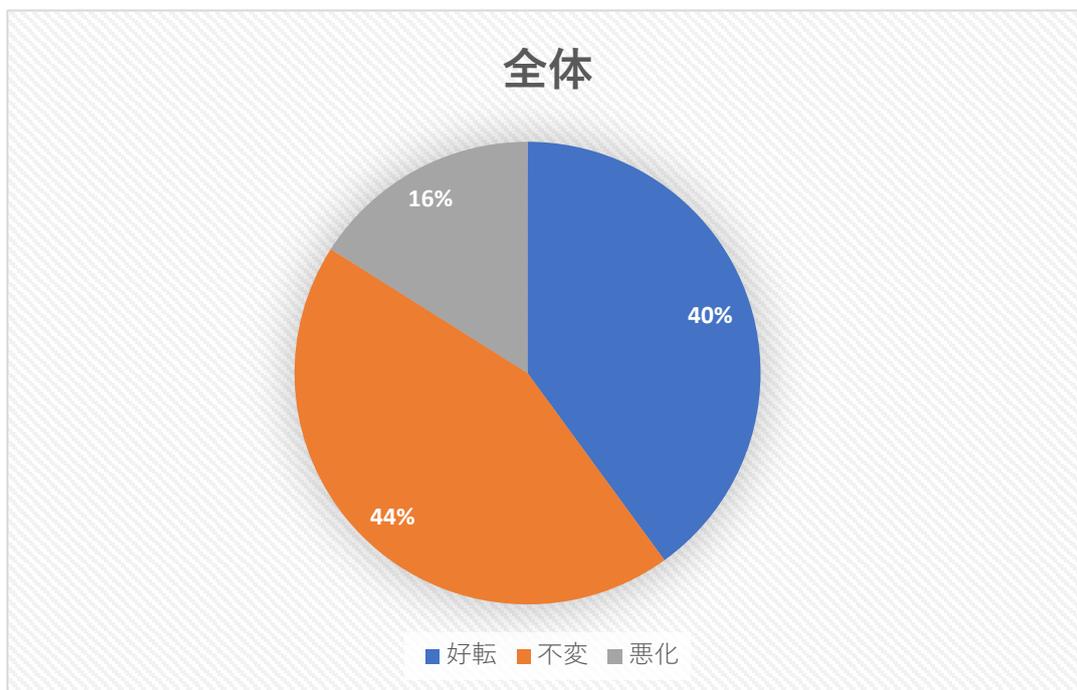
<項目1> 3か月前と比べて

		好転	不変	悪化	計	業況DI
全体	実数	6	16	3	25	
	構成比	24.0%	64.0%	12.0%		+12.0
農業	実数	0	1	0	1	
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0
製造業	実数	4	6	1	11	
	構成比	36.4%	54.5%	9.1%		+27.3
建設業	実数	0	2	0	2	
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0
小売業	実数	1	2	0	3	
	構成比	33.3%	66.7%	0.0%		+33.3
サービス業	実数	0	1	0	1	
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0
飲食業	実数	1	1	1	3	
	構成比	33.3%	33.3%	33.3%		0.0
観光業	実数	0	3	1	4	
	構成比	0.0%	75.0%	25.0%		-25.0



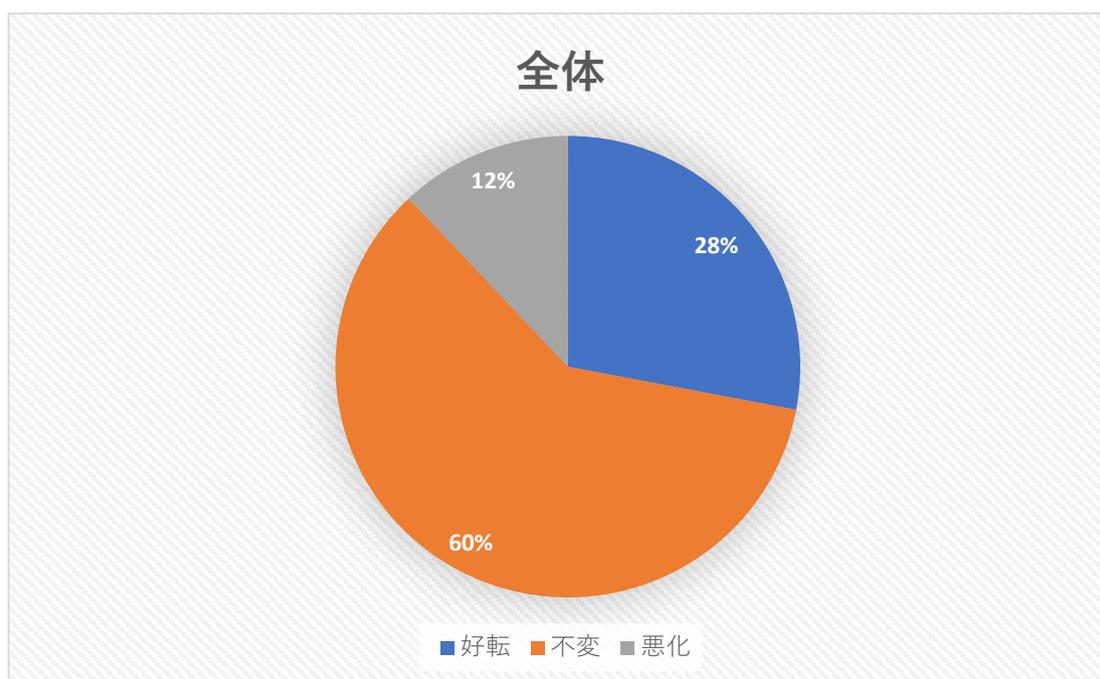
<項目2> 前年同期と比べて

		好転	不変	悪化	計	業況DI
全体	実数	10	11	4	25	
	構成比	40.0%	44.0%	16.0%		+24.0
農業	実数	0	1	0	1	
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0
製造業	実数	6	3	2	11	
	構成比	54.5%	27.3%	18.2%		+36.4
建設業	実数	0	2	0	2	
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0
小売業	実数	1	1	1	3	
	構成比	33.3%	33.3%	33.3%		0.0
サービス業	実数	0	1	0	1	
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0
飲食業	実数	2	0	1	3	
	構成比	66.7%	0.0%	33.3%		+33.3
観光業	実数	1	3	0	4	
	構成比	25.0%	75.0%	0.0%		+25.0



<項目3> 3か月後の見通し

		好転	不変	悪化	計	業況DI
全体	実数	7	15	3	25	
	構成比	28.0%	60.0%	12.0%		+16.0
農業	実数	0	1	0	1	
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0
製造業	実数	3	7	1	11	
	構成比	27.3%	63.6%	9.1%		+18.2
建設業	実数	0	2	0	2	
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0
小売業	実数	1	1	1	3	
	構成比	33.3%	33.3%	33.3%		0.0
サービス業	実数	0	1	0	1	
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0
飲食業	実数	2	0	1	3	
	構成比	66.7%	0.0%	33.3%		+33.3
観光業	実数	1	3	0	4	
	構成比	25.0%	75.0%	0.0%		+25.0



<経営者の眼（見方）>

計画遅れの案件があるものの順調に推移しています。原油高や材料費の高騰が若干心配です。	製造業
コロナ感染による経済は停滞またはマイナス方向である。半導体不足による顧客の生産調整が激しくマイナス成長と感じている。	製造業
民間工事の見込みは減少傾向にあるので、公共事業の受注に努力したい。	建設業
仕事があっても人手が足りない	建設業
昨年と比べれば好転しているが、一昨年との比較では減のため良い状況ではないと感じている。	小売業
昨年はコロナの影響により大きく落ち込みましたが現状は最低限の売上を確保できています。今後はワクチン接種率の増加に伴いコロナ前に戻ってくることを期待しています。	飲食業
緊急事態宣言、諏訪地域でのコロナウイルスの拡大で、客足が遠のきがちな時期が長く続いた。外食や飲食店にいく事事態が懸念されているような雰囲気世の中にあり、なかなか打つ手がなかったが、安心して来店してもらえよう、人数制限等の感染症対策を見直し徹底した。 全国的にも緊急事態宣言が解除された6月後半からはお客様が増えた。お得な安心なお店の応援クーポンの販売の効果もあり、今後定期的に来店してくれる地域の方も増えることが期待できる。	飲食業
7月に入り新型コロナウイルス感染者の増加が見られることから、来客数の減少が予想される。 飲食店ができるテイクアウト商品には限りがあり、テイクアウトだけでは根本的な解決策にはならないので、町、県、国を挙げての新型コロナウイルス感染症対策の抜本的な見直しが必要な時に来ていると思います。	飲食業
ワクチン接種等により人流が回復することを願います。	観光業
緊急事態宣言がでるたびにほとんどキャンセルになってしまう。7月以降は現時点で予約率は良いようであるが、先日の緊急事態宣言が首都圏に出た時点でキャンセルが出始めている。 ワクチン接種率が上がり密の心配が無くならない限り難しいと考えている。年末ごろには見通しが立てば良い方だと考えている。	観光業